# 県保協だより

令和3年3月
第25号・26号
合併号

Kyenhokyo News

■発行所　山梨県保育協議会甲府市北新1-2-12
☎（055）254-8610
■発行人　山梨県保育協議会 会長　廣瀬集一
■編集人　山梨県保育協議会　広報・調査委員会
■印刷所　（株）オズプリンティング

Hoiku Taikai

## 第55回 山梨県保育大会

保育事業功労者知事表彰受賞者（中央：山梨県子育て支援局　依田誠二局長）

全国保育協議会会長表彰

全国保育士会感謝状表彰

県保協会長表彰受賞者と廣瀬会長、深澤保育所保護者連合会会長

**本年度よりこの『県保協だより 合併号』『やまじ』もホームページでご覧頂けるようになりました。関係の方々への周知もお願いします。**

**◎県保育協議会ホームページを活用しましょう！**

皆様の声を反映して作っていきたいと考えております。コロナ禍でインターネットでの情報の発信、共有、活用が進んでいます。この機会に、皆様もアクセスしてみてください。ご協力をお願いいたします。

http://www.yamanashi-hokyou.jp/　右の二次元コードからもアクセスできます。

※掲載記事については令和2年10月に執筆頂いたものです。

# 令和2年度 山梨県保育協議会 会長あいさつ

山梨県保育協議会会長　廣　瀬　集　一

新型コロナウイルス感染拡大の真っただ中で、令和2年度がはじまりました。非常事態宣言が出され学校は休校、公立施設や娯楽施設は閉館、移動もままならず、国民生活も経済も止まってしまいました。山梨県は、4月当初から登園自粛を呼びかけ、各市町村でも自粛の通知が発出されました。その後緊急事態宣言が全国に出されましたが、いち早い対応のおかげでご家庭のご理解を得る中、保育所・認定こども園も保育の必要なお子様たちを感染拡大の最前線で預かり続け、名実ともにエッセンシャル・ワーカーの一員となり、会員の皆様には今もなおご尽力されておられますことに、敬意と感謝を申し上げます。

日本が子どもの権利条約を94年に批准し25年が経ちました。すべての子どもたちが幸せに生きるために持つ基本的な権利や、それを守るため、社会や大人が具体的に守るべきことが書かれています。深刻な児童虐待によって子どもが傷ついたり亡くなったりする事件が続き、いじめによる自殺や、子どもの貧困もますます顕在化してきました。子どもたちをめぐる保育所・認定こども園と、自治体や関係諸団体との連携強化がますます重要となっています。

昨年10月からは、幼児教育・保育無償化がはじまりました。海外で複数の大規模縦断研究が報告されたことを受け、国立教育政策研究所が日本の就学前教育に対する公的負担が極端に少ない現実と、就学前教育の「質」や「年数」の確保が、その後の子どもの認知的及び非認知的能力の発達に肯定的な影響を持ち、結果として将来の所得向上や生活保護受給の低下につながるとの報告をしたことによります。

子ども・子育て支援法改正案には、付帯決議として、待機児童の解消や保育の質の向上、保育者の確保と処遇改善に加え、今後の「保育の必要性がある0～2歳児全員を無償化の対象とすることに向けた検討」を行うことを求めており、今後の子育て政策に期待がかかります。

「子ども・子育て支援新制度」の第Ⅱ期がはじまりました。給付制度の違いからくる公立私立施設の運営の違いや、職員配置、事務処理の量の増加や複雑な仕組みに負担が増し、まだまだ課題を抱えています。

保育士・保育教諭等の賃金改善と幼児教育・保育の質の向上は同時に目指すべきものとして研修要件が定められています。運営基盤の基盤となる「人材確保及び養成」は永年の課題であり、各園では処遇改善Ⅱに伴い経験年数や専門性に応じた職務の新設が行われていると思います。山梨県では全国に先駆けて29年度後半からキャリアパスに伴う認定研修を実施してきました。今般山梨県教育委員会と子育て支援局、県私学振興会幼児部会と県保協、山梨大学や県立大学などの養成学校では協議を続け、本年10月1日に山梨県が山梨大学内に「幼児教育センター」を設置し、幼児教育・保育の質の向上や幼保小の接続、研修体制などの充実を一体的に推進していくこととなりました。

本年度においては、認定研修分野の拡大や認定こども園・幼稚園の認定研修を取り入れるなど研修機会を大幅に増やしていくことを検討していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施が困難になっています。関東ブロックや全国大会開催については来年への延期が決まりました。このような中で、テレワークやオンライン会議が多く企画されるようになりました。Society5.0の社会の実現に向かって学校では1人1台端末環境が急激に進み、子ども一人一人が個別最適化されることにより、創造性を育む「未来の教室」が現実として進むこととなりそうです。幼児教育・保育の現場でも、ICT化は喫緊の課題となっています。Withコロナの時代に私たちも後れを取るわけにはいきません。

# 新型コロナウイルス感染症防止について

山梨県子育て支援局子育て政策課　課長　土屋　嘉仁

山梨県保育協議会の皆様には、日頃より、本県の保育環境の向上に御尽力をいただいており、心から感謝申し上げます。

本年は、新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し、4月には全国に緊急事態宣言が発せられ、社会活動や経済活動にも大きく影を落としております。本県においても、本年2月には、こどもへの感染リスクに備えるという観点から、市町村を通じ保護者の皆様に保育所等への登園自粛についての協力をお願いするとともに、保育士をはじめ職員の皆様には、密集、密接が避けられない環境の中で、保育の継続をお願いしてきたところです。皆様の御理解や御協力をいただいた結果、現在まで、県内の保育所等においてクラスターが発生することもなく、徐々にではありますが、活気にあふれる保育が実施されております。

県におきましても、県民の方々の声を踏まえ、去る6月には、保育者の皆さまへの感謝の気持ちを表す県庁別館のライトアップを実施したところであり、この場をお借りして、あらためて関係者の皆様の御尽力に感謝を申し上げます。

現在も、新型コロナウイルス感染症の終息は見えない状況ではありますが、「感染症に負けない山梨の子育て環境」の実現に向け、引き続き御尽力をいただけますようお願いいたします。

さて、子育てを取り巻く環境については、少子化や核家族化に伴う保護者の孤立、不安や負担感の増加などさまざまな問題が顕在化しております。

こうした状況の中で、身近な地域において、保育の知識や技術に優れ、経験豊富な頼りがいある保育士の方々の存在は、保護者が何より心強く感じるところであり、保育人材の確保とともに職場へ定着をしていただくことが重要となっております。

県では、この9月、全保育所等に対して保育士の離職防止の取組等についてアンケート調査を実施させていただきましたが、「持ち帰り業務を無くすため、休憩時間とは別に『ノンコンタクト時間』を設定し、記録などを行う時間に充てている」、「雑談や声掛けなどをきっかけに、困っていること、考えなどを話してもらい傾聴する」、「年度単位で自主勉強会を複数立ち上げ、ベテランから若手までが意見を交換しながら保育の運営に自らが主体的にかかわる意識を醸成し、やりがいにつながるよう取り組んでいる」など、各園において様々な取組を実施していただいている状況が把握できました。アンケート結果の詳細につきましては、市町村等を通じて情報提供をさせていただきますが、好事例を参考にしていただき、更に働きやすい職場づくりに役立てていただければと考えております。

県におきましても、この調査結果等も踏まえ、保育を取り巻くさまざまな課題の解決に向けて貴団体をはじめとする関係機関や市町村との連携を深め「子育てしやすさ日本一」に向けた取組を鋭意進めて参りますので、引き続き御協力と御支援をいただけますようお願い申し上げます。

## コロナ禍の日々が教えてくれたこと

保育部会長　山本　亜紀子

令和2年度、山梨県保育協議会保育部会長の大役をいただきました。昨年1年間、前保育部会長宮下先生の下で、副部会長として会議に同行し、保育部会長の仕事について学ぶなかで身に余る大役と自覚しながら、覚悟を決めて迎えた令和2年度でした。

しかし、年度当初既にコロナ禍にあり、全国はもちろん、県内の会議も中止、文書審議が相次ぎました。そして、リモートで会議や研修が行われるようになったのです。インターネットの環境が整えば、自分の場所にいながら安全に会議に参加できる、ひと昔前には思いもよらなかった方法です。コロナ禍が去っても、開催方法の一つとして継続していくことでしょう。

一堂に会さずに、会議や研修ができること、今の世の中では、非常に良い方法であると思いながら、それでも私は、コロナ禍が去った後、大勢が一堂に会する場にも再び立ちたいと思うのです。副部会長の時に経験した会議や懇親会、初めて顔を合わせた人との会話、人間関係の広がりを再び経験したいと思うのです。日々の保育が、子どもたちとの、同僚の保育者たちとの触れ合いを軸に展開され、人と触れ合うことで育まれるものの大切さを実感しているからなのでしょう。コロナ禍での生活は、私はやっぱり、人と空間を共有したい、そこで生まれる空気感や雰囲気から展開する関係を大事にしたいのだ、と気づかせてくれました。

## 伝え続ける大切さ

保育検討委員会　清和福祉会認定こども園大野山保育園　園長　高山　有

新型コロナウイルス感染症の先の見えない不安の中で始まった令和2年度、保育の現場では「例年通り」という言葉が通用しない日々が続いています。長期間にわたる自粛生活の中、子どもたちを中心とした保護者支援、地域支援の方法に試行錯誤しました。教育や保育について改めて考え、それらを実践するための準備、組織として全職員と話し合う時間が持てたことは大きな意味のある経験でした。

日々試行錯誤する中で見えてきた保育現場の改善すべき点や工夫だけでは対処できない様々な問題にも気付くことがありました。山梨県には、手厚い子育て支援の施策や環境を活かした保育など、山梨県ならではの幼児教育があります。

子どもの主体性を大切にする保育を行うには、充実した保育士の確保、質の向上が重要です。また、人材の確保が余裕を持った丁寧な保育にも繋がると感じています。保育士不足や配置基準の見直し、キャリアアップ等の研修体制、事務の軽減（加算申請等）、更には新型コロナウイルス感染症に伴う様々な対策について等、保育検討委員会として山梨県内の各地域での要望、意見をまとめていく予定です。幼児教育の重要性が認知され、いろいろな分野から注目される今、現場の声を伝え続ける大切さを委員会を通して、教えていただきました。『子どもたちのために』改善していくことを忘れずに、検討していきたいと思います。

## 令和2年度　研修委員会事業計画について

研修委員会　百田保育所　所長　石川　みちよ

令和２年度は、新型コロナウィルス感染症の流行により、子ども達や保育士の生活に大きな影響がありました。

研修会は軒並み中止となり、第一回研修委員会の開催は3か月遅れの9月18日でした。

今年度の「保育所（園）・認定こども園長研修会」・「主任保育士・主幹保育教諭研修会」について、リモート研修会を開催する環境があるか、ソーシャルディスタンスを保つことのできるホールを何ヶ所も借りることができるかなど話し合いました。結果、今年度は中止という選択しかないことを確認致しました。

それでは、今年度の研修委員として何をするべきか。来年度に向けて、各施設また近隣のホール等にリモートの環境があるか確認をする。どのような内容の研修会を必要としているか、講師についても同時にアンケート調査を行うこととしました。

ブロック毎、集約した内容を持ち寄り、12月、第二回研修委員会を開催し、まとめたものを来年度の研修委員の皆様にお渡しすることと致しました。

終息を願い、どのような環境においても子ども達と共に「生きる力」を育んでいくことのできる私たちでありたいと思います。

所長・園長研修会、主任研修会に参加することで、専門性に磨きをかけ資質向上へと繋がることを願っています。

## 今年度の活動について

地域子育て支援委員会　千野保育園　園長　三輪　大然

今年度は新型コロナウィルス感染症の影響を受けて、例年より遅れての開催となりました。未だ収束の兆しが見えないコロナ禍の中、安心・安全な保育を実施する為に私達が出来る事を委員会で話し合った結果、各園の様子やコロナ禍においての実態、独自の取り組みや問題点など、情報を共有して新たな取り組みに繋げていける様、アンケート調査を行うことになりました。

保育所保育指針では「子どもの保育」と「保護者への支援」という役割が求められています。保護者の方々には県から登園の自粛が求められていても、その期間中も保護者の方々と連絡を取り合い、子ども達の様子を把握するなどの取り組みを各施設で行っていたことと思います。誰も予想しなかったコロナ禍という災害の中で、私達保育者に求められる役割が更に大きくなったのではないでしょうか。

より良い保育を行う為に、そして子ども達が健やかに育つために、その求めに応じた環境が必要です。現場では保育士が人的環境となり、子育て支援のプロとして活躍してくれています。コロナ禍においても、３密を避けることの出来ない職場環境の中で日々大変だと思いますが、その保育士を守る為にも出来る事を考え、現場の想いを伝える努力をしていきたいと思います。

最後になりましたが、保育士をはじめ、看護師、栄養士、調理員など、保育に関わる職員の皆様の日々の努力に、この場をお借りしてあらためて感謝申し上げます。

## 本年度の委員会活動についての目標

**保育内容研究委員会**　竜王北保育園　**高橋　恭子**

本年度は新型コロナウィルス感染症の影響で委員会の開催も心配されていましたが、十分な感染対策をとりながら8月にスタートしました。

半年間という短い研究期間ではありますが、今皆さんが何を知りたいのかという思いに添って、研究内容を検討しました。

話をすすめていくなかで一番の関心は新型コロナウィルスの感染症対策でした。食事・消毒・遊び、そして保護者の送迎など普段の保育はもちろん、それぞれの行事でも各園いろいろな工夫や配慮、対策を考え、保育園版「新しい生活様式」が各園で定着しつつある状況だと思います。

今まさにコロナ禍で日々の保育をすすめていく私たちにとって、感染から子どもたちを守ること、有効的な感染症対策を講じていくことが喫緊の課題であると考えました。

各園で行われている感染症対策について現場の声を集約するため、アンケートという形で調査を行います。皆さんと共有すべき感染症対策をまとめて、情報提供をしていきたいと考えています。

今回の研究内容が、まだ収束の見えないコロナ禍の保育に活用されていくことを願い、調査研究をすすめていきたいと思っています。

委員の先生方と一緒に有意義な活動にしていきたいと思います。会員の皆さんのご理解、ご協力をお願い致します。

## 本年度の活動について

**給食研究委員会**　北杜市役所　子育て応援課　栄養士　**坂本　夏美**

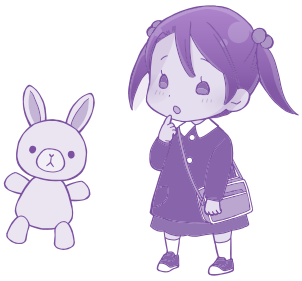
今年の給食研究委員会は、主任保育士２名、栄養士7名、調理員３名で構成されています。

初回は、給食に関する各々の抱えている悩みや取り組みたい内容について意見を出し合うことから始めました。知りたいことや取り組みたいことなど様々な意見があがり、日々、どの現場も大変な様子が伺えます。その中で、「魚料理の食べが悪い」「魚料理を知りたい」という意見があがり、今年の給食研究委員は、「食べやすい魚レシピ」をテーマに取り組むことにしました。

水産庁によりますと、日本人の1人あたりの魚介類消費量は減少しています。特に若い層の摂取量が少ない状況です。調理の手間や価格が高いなど、様々な理由はありますが、魚にしか含まれていない栄養を子どもたちの元に届けられるよう、保育園のみならず家庭への情報発信も重要となります。

今年は、コロナウイルス感染症予防の観点から調理実習は行うことができません。しかし、各委員が魚レシピを持ち寄り、それを冊子にします。委員の中には保育士の方もいらっしゃいます。意見を出し合いながら、保育現場や調理現場の参考になるような資料を完成させたいと考えています。

様々な地域から集まった委員の皆さまと短い期間ではありますが、有意義な活動を展開していきたいと思います。



## 緊急事態宣言

甲南立正保育園　園長　齋藤　正善

新型コロナウイルスの発生により、山梨県内でも緊急事態宣言が発令された。その際に、県内各自治体の対応は全く違うものであった。私の園は甲府市にあるが、宣言発令後に自治体による休園措置は取られなかったのだ。ウイルス発生当初はまだ情報も少なく、ほぼ未知のウイルスが発生していた状態であり、周辺自治体のほとんどが保育施設の休園措置を決めていた。しかし、その様な中でも私達の自治体は自粛要請のみで、通常保育を決めたのだ。

属している自治体の決定に従うという事は、当たり前の事だと理解は出来るが、市内の幼稚園、小中学校や高校、大学においても休校措置が決定しており、この時ばかりは感染の不安や、今までに感じた事の無い恐怖、大きな精神的負担を感じながら保育を行う事となった。「なぜ私達だけが？」という疑問を感じ、腑に落ちない部分もあったが、決定事項と言われると従うしかないのだ。中には、過敏になりすぎだと感じる方もいらっしゃるかと思うが、あの状況下で普段通りに開園していた施設にしかわからない気持ちがきっとあるだろう。

大切な「子どもの命」を預かる仕事ゆえに、常に私達は様々なリスクから子ども達を守らなければならない。長い目で考えると、今後も緊急事態は起こり得るであろう。国・県・市、更に言えば町村単位でもしっかりと足並みを揃え、連携していく必要があるだろう。

## 感染症対策をする中での夏まつり

中央市立田富第３保育園　河西　奈美

新年度がスタートし、入園式は新入園児と保護者のみの参加、子どもたちが楽しみにしていた親子遠足も中止、いろいろな行事が延期・中止となる中、夏まつりは出来るのだろうかという所から沢山の話し合いを重ねていった結果、今年は保護者は不参加で七月第二週を「夏まつりウィーク」として開催することになりました。「どうすれば安全に夏まつりが出来るのだろうか？」あらゆる感染防止対策を考え、活動に対しても密を避け、小グループごと楽しめるよう内容を話し合い工夫しました。活動中は消毒・換気に留意し、子どもたち自身も手洗いの手順を覚え、こまめに消毒することが身についてきました。保護者の方々には、子どもたちの楽しんでいる様子を少しでも感じて頂けるよう、毎日活動の様子をその日のうちに市のホームページに掲載し、送迎時に見て頂けるよう写真を貼り出しました。保護者からは「毎日子どもが楽しかったと色々な話をしてくれてホームページや掲示板からも内容がよく伝わり楽しかったです」と感想を頂きました。一週間かけての夏まつりは準備等、想像以上に大変だったけれど、私たち保育士も子どもたちと一体となって夏まつりウィークを楽しみました。今後の子どもたちが楽しみにしている行事をどこまで安全に開催できるか話し合い、制限がある中でも子どもたちの健やかな成長を育めるよう創意工夫をし、保育していければと思います。

## コロナ禍における保育所の動き

南アルプス市立南湖保育所　所長　清水　美佐子

「新型コロナウイルス感染拡大予防」の言葉を何度口にしたでしょうか。国や県の動向を受け、市や所長会などで感染対策の情報収集や話し合いを持ち対応してきました。体調管理、手洗いや消毒、３密を避けるなどの周知を行い予防に努めました。そして働く保護者の支援のため、保育所は開所を継続しながら、感染者が出た場合を想定し、在宅勤務職員の調整など体制を整え、危機管理の強化を図りました。

感染予防のため行政の要請と保護者のご協力により登所自粛児童も増えましたが、数か月後には体制もとられ解除となりました。また所長会で新しい生活様式によるガイドラインを作成し、各保育所において統一した方針で行うようにしました。保育士は児童と密接に関わる機会が多く、感染の不安もある中で、楽しく一生懸命に保育に取り組んでいます。

残念ながら保護者や地域が関わる行事の開催は難しく、課題が山積みでした。市全体や保育所単位の行事が中止や延期になる一方、内容や方法を変更して実施できたお祭りごっこや運動会では、みんなの笑顔がとても輝いていて、貴重な思い出となりました。

コロナ禍での保育所の役割や責務は大きく、社会経済活動の維持と生命を守ることの厳しさを痛感しました。私たちはこの社会環境において児童の家庭状況や精神面、体力低下などに配慮しながら、児童が少しでも良い経験を積んで、幼少期の成長に寄与できるよう、日々を大切に過ごしていきたいと思います。

## 新たな保育の模索

笛吹市立八代花鳥保育所　所長　岡　詞子

令和２年２月、豪華客船の乗客に新型コロナウイルス感染症の患者が発生したというニュースが流れた。以前SARSが発生した際にも報道機関から多くの情報を得ていたが身近な疾病ではなく、今回の報道を受けてもよそ事に受け止め、特段の準備をせずにいた。ところが乗客の感染が拡大するにつれ世の中が急速に感染防止に動き、衛生材料が店頭から無くなってしまった。

保育所でも感染防止として不織布マスクの着用・アルコール消毒を行いたかったが十分に手に入らず、布マスク着用・ハンドソープでの丁寧な手洗い、電解水での殺菌消毒で対応するしかなかった。
園児の密を避ける為に戸外で遊ぶ時間を多くとるが、散歩は手をつなぐなど接触があるので行えない。そして今まで当たり前に行ってきた誕生会やひなまつりなどの行事も中止や縮小、卒園式や入園式さえも少人数・短時間での開催となりセレモニー感が薄れたが、節目として実施できた事は良かったと思う。

学校が３月より休校する中でも、働く保護者を支える為保育を継続してきた。職員は保育所に感染症を持ち込まないよう今まで以上に私生活も配慮し、気の休まる時がない日々を過ごしている。

コロナ禍で保育が一変した。昨日までの常識が今日は通用しない。何が正解かわからないが、園児と職員の心身の健康を守る為に、安全な保育とは何か、どのような工夫ができるのかを常に考え行動している。

## コロナ禍での保育を探って

私立保育園　たんぽぽ子どもの家　園長　海野　輝男

昨年度末、新型コロナウイルス感染症の流行が身近になる中、いったいどう対応したらいいのか、混乱し悩んだのはどの園も同じだったことでしょう。

これまでの感染対策マニュアルでは通用せず、各園での保育や行事の実施については、園の判断に任された形でした。登園自粛を経ての現在でも、〔行事はできるのか？３密を避けるため中止か？延期か？実施できる方法は？〕あれ以来、こんな問答が、自分の中でも、職員の中でも何度となく繰り返され、その都度決断を迫られてきました。

恐れるのは、園内から陽性者がでる、クラスターがでること。『命を守ることが最優先』保育者でなくても当然のことで、この言葉には逆らえません。

けれど、目の前の子どもたちの育ちをどうしたらいいのか？未満児はマスクはつけられず、密接を防ぐといっても赤ちゃんを抱っこしなくて保育は成り立たない。それが保育の現場です。

できる限りの感染対策で保育現場の安全を確保し、丁寧な説明で保護者に安心してもらい、緊張やストレスを抱える職員のメンタルケアも必要です。それでもこの状況下で子どもたちの食事指導や言葉の獲得に影響が出ることは避けられないでしょう。更に将来の育ちへの影響が懸念されます。子どもの「今」を大切にし、影響を最小限にする努力こそが必要ではないでしょうか。

地域の感染状況に応じた対応が大切なはずです。個々の園が積み重ねた試行錯誤を共有し、より良い保育の在り方への模索が進むことを願っています。

## コロナ禍における保育の今

忍野村立忍草保育所　宮下　賢子

コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、緊急事態宣言が出されて以降、本園でも園児の感染を未然に防ぐためガイドラインに沿った対策を行っています。登園時には、マスクの着用と消毒の協力、保護者の方には園児の検温、体調状態を健康カードに記入し、毎日の提出に協力していただいています。

「子どもたちの命を守る」「子どものためにできる事は何か」制限のある保育の中で何が一番良い方法なのかを職員間で何度も話し合いました。保育を見直し行事については形を変える事で子どもたちが楽しめるよう工夫を加え、中止するのでなく開催の方法を変更して対応しています。特に運動会など保護者の参加する行事では、３密を避けながら進めていくためにどのような形で、参加を何人までにするのか、保護者会とも相談しながら最大２名の保護者を基本に人数制限を行いました。例年一日で計画している行事も日数を増やすことで一度に集まる人数を分散したり、時間を短くするなどの工夫で対応しています。これまで範囲を制限していた散歩などの園外活動も、人混みを避け少しずつ歩く距離を延ばし、裏山や公園に出掛け自然に親しみながら楽しんでいます。

早々の終息を願いつつ、例年とは違う生活様式や行事の在り方を見直し子どもたちと今をどう過ごすのか、試行錯誤しながらこれからもいつまで続くかわからない感染症と上手に共存していきたいと思います。

# コロナ禍における保育

大月保育園　園長　井上　健

令和に入り誰がこんな状態になる事を想像していたでしょうか。いつもの保育、いつもの行事、日々の生活を楽しみ、何ら変わりなく様々な行事を楽しむ予定でした。それが新型コロナウイルス感染症が流行したことにより、当たり前の生活が一変しました。

感染症が騒がれ自粛要請があったものの、保護者は東京方面への仕事が多い、テレワークでの仕事が始まっても「子どもがいると仕事ができない」等の理由もあり園児はあまり減りませんでした。送迎のために園へ入ることでの感染にピリピリ、ここをまず対応し、園舎内に入らない方法で送迎するようにしました。園舎内は、２４時間噴霧器で消毒、カーテン、床、机、イスすべて噴霧消毒、玄関やトイレでの消毒、見えないウイルスなだけに神経を使いました。

保育士はマスクをつけて保育をしていましたが、子どもは保育士の表情や口元を見ているところがあり、マスクをつけての保育はしづらく、リスクはあるもののはずしての生活が増えました。密にならないようにも心がけましたが、部屋の広さやスキンシップの面から避けきれない所もあり「園側からは絶対に感染を起こさない」これに重点をおきました。

様々なリスクを負いながら、このコロナ禍での保育、その中で成長していく子ども達のことをまず考えて、心にゆとりを持って、子ども達と触れ合える温かい保育園でありたいと考えています。

みんなで楽しくバスでの遠足や運動会、発表会、保護者同士の交流等、何も気にせず園生活が送れる日が来ることを願うばかりです。

## 広報・調査委員会

北杜市立小淵沢西保育園　園長　日向　五十鈴

今年度はコロナ禍で活動に制限があり、例年通り…とは行かず、今後の予測もつかないままのスタートとなりました。発行は「早い段階」で「１回」、が妥当であることを確認したのち『出来るだけ例年と同じクオリティで作成したい』思いを込め、今回の「２５・２６合併号」という形をとりました。更に合併号発行後の行事に関する記事については、県協議会ホームページ活用で合併号の内容を補う予定でおります。

職業がらストレスや不安も多く、心配事は尽きません。今年度は例年のような一堂に会する研修もほぼない状況ですし、会員同士の交流の場がほとんどなく情報交換もなかなかできません。そんな中会員の皆様には、本号から今年度の県協議会の活動の様子や各ブロック代表園の日常の様子、保育への思いなどを知って頂くことで、共感したり、励みにしたり、明日への力にしたり、となればうれしい限りです。本号発行にあたり関係の皆様にはお忙しい中、執筆にご協力いただき感謝申し上げます。

| | | |
|---|---|---|
| 甲府市 | 齋藤　正善 | 甲南立正保育園 |
| 中巨摩 | 塩澤とし子 | 豊富保育園 |
| 南アルプス市 | 深澤　貴子 | 櫛形西保育所 |
| 山梨市・甲州市 | 根津　幸子 | 八幡保育園 |
| 笛吹市 | 向山富貴子 | 境川保育園 |
| 峡南 | 井上　枝里 | 富士川町立第5保育所 |
| 韮崎市・北杜市 | 日向五十鈴 | 小淵沢西保育園 |
| 富士吉田市・南都留 | 大森　英子 | 忍草保育所 |
| 東部 | 井上　健 | 大月保育園 |

## 編集後記

山梨市立八幡保育園　園長　根津　幸子

今年度はコロナ禍において、登園自粛・休園・行事の中止など、且つてない程困惑な状況下にある中、私たちは今、子ども達を守りつつ保育の現場に立っております。あらゆる状況にも応じ、最善の配慮を尽くしているところでありますが、今後の感染症への不安も残る中、各ブロックにおかれましては、コロナ禍での様々な保育への取り組みや、疑問そして課題などをご紹介いただきました。大変興味深い内容となっておりますので、ぜひ、参考にしていただきたいと思います。合併号に掲載されない表彰受賞者に関しましては、ホームページにて掲載をさせていただきますのでご覧ください。新年度におきましても、留まる事なく前を向いて、皆さまと一緒に備えや対応に努力してまいりたいと思います。一年間ありがとうございました。

# 受賞者代表謝辞

富士河口湖町立小立保育所
所長　小林　よし美

柔らかな春の日差しが差し込み心躍る季節となって参りました。

この度、知事表彰という栄誉をいただきましたことは、身に余る光栄と感謝の気持ちでいっぱいです。

ここに、本日の受賞者を代表いたしまして、お礼を申し上げます。

さて、長い年月を振り返りますと、その光景が走馬灯のように蘇ってまいります。

いつも私の周りには笑顔いっぱいの子ども達がいました。子どもとの触れ合いを大切にしながら、どの子も活き活きとした明るい子になるようにと意欲をもって仕事に取りくむことができましたのは、子ども達のおかげでした。

しかし、楽しいことばかりではなく、失敗や悩みも数多くありました。そんな未熟な私が成長できましたのは、職場の上司、同僚、家族など多くの方々の支えのおかげだと思っております。

今年度は新型コロナウィルス拡大のため、通常保育を行うことが難しい環境になりましたが試行錯誤して乗り越え、今日に至っております。厳しい状況の中においても、子ども達は変わらずに『友達』や『思い出』という宝物を得ています。子どもの適応力の速さに可能性と柔軟性を感じた一年でもありました。

このうえはさらに決意を新たにして、より多くの保育ニーズに応えるために、自己研鑽に励み、未来を担う子ども達を育むという仕事を選べたことへの感謝と誇りをもって本日の栄誉に報いるために職務を尽くす所存でございます。

結びに、山梨県、山梨県保育協議会、山梨県保育所保護者連合会のさらなるご発展とご列席の皆様のご健勝を記念いたしまして謝辞とさせていただきます。